

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101397		
法人名	有限会社 ナナカマド		
事業所名	グループホームななかまど		
所在地	青森県青森市第二問屋町1丁目7-14		
自己評価作成日	令和4年4月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に住むひとりとして、役割を持ち、安心して生活できる家を目指す」の理念を持ち、入居者様一人ひとりの居室を「家」、食堂を「公共の場」と考え、安心して生活できる環境作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に住むひとりとして役割を持ち、安心して生活できる家を目指す」理念のもと、職員は利用者が毎日楽しく、穏やかに過ごせるよう、試行錯誤を重ねながら支援を行っている。ホームでは利用者個々の時間を大切に考えており、ホールには一人掛けのソファを配置している他、一人ひとりのプライバシーにも配慮し、それぞれの生活ペースに合わせた介護の実践を行っている。利用者の表情は皆穏やかで、ゆっくりとしたペースで穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に住むひとりとして、役割を持ち、安心して生活できる家を目指す」という理念のもと支援している。理念は事務所のホワイトボードに貼り、職員は理解している。	ホーム独自の理念を作成しており、地域密着型サービスの役割を反映させたものとなっている。普段から全職員で理念を共有し、利用者が安心して生活できる家を目指して、日々のサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域住民との交流の機会を作るように取り組んでいたものの、コロナ禍のため現在は交流できていない。	近所の公園等に出かけた際に挨拶を交わす等、近隣住民とは顔馴染みの関係である。また、町内会に加入したり、近隣の雪かきを行う等、日常的に地域との交流ができるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には、交流を通じて理解していただくように働きかけており、今後は運営推進会議を利用して働きかけていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施していないため、今後は定期的に行い、サービス向上に努めていきたい。	ホーム移転前は定期的開催していたが、移転後はコロナ禍とも重なり、会議を開催していない状況である。今後は書面等で開催する予定となっている。	地域や利用者、家族の意見を取り組み、サービスの質の向上を図るためにも、定期的な運営推進会議の開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	業務中での質問や相談の際には電話をする等、指導をいただいている。	日頃から、利用者に関する事やサービス提供等、様々な課題解決のために行政と連絡を取り合っており、関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関等を施錠しており、身体拘束は行わない姿勢でケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回、身体拘束等の適正化に向けて基本方針を確認している。	ホームでは身体的拘束等適正化委員会を設置しており、3ヶ月に1回の定期的な会議を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、書類等を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から職員同士で話し合っている他、事務所でいつでも確認できるようにしている。また、ホーム内研修の実施を計画している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいらっしゃるため、普段から学ぶ機会を持ち、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、入院時や事故があった場合の対応や看取りに関する説明をし、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望は、関わりの中で察するように心掛けている。ご家族様の面会時や電話連絡時に意見をいただき、対応している。申し送りや連絡ノートを利用して、全職員が理解している。	日頃から利用者とのコミュニケーションを大切にし、玄関に意見箱を設置したり、相談・苦情受付窓口を明示する等、意見や苦情を出しやすい環境作りに努めている。また、出された意見や苦情に速やかに対応する体制を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの時間やノートを利用し、職員の意見を聞く機会を作っている。	代表者が毎日ホームを訪れて職員とコミュニケーションを図っており、職員が直接意見を出せる環境である。また、出された意見は必要に応じて、日常のケアやホームの運営に反映される体制を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの努力や実績を把握している。また、職員の意見をできる範囲で反映し、より良い職場環境を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の実施を継続している。また、ホーム外研修については、コロナウイルスの感染状況をみながら検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム等と電話で意見交換を行っている。コロナウイルスの感染状況をみながら交流を続けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談をいただいた際、入居者様やご家族様より情報をいただき、安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集の際に、ご家族様の不安な事や要望を理解し、支援することを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面会や関係機関からの情報等で必要な支援を検討し、入居者様やご家族様と話し合い、対応するように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に生活をする」姿勢を忘れずに支援するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等の連絡を利用し、ご家族様の負担にならないように配慮しながら、一緒に支援していくように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会は見られなくなったものの、希望があれば電話や手紙を利用し、馴染みの関係が途切れないように心掛けている。	コロナ禍のため、友人や知人との面会は難しくなっているものの、葉書の代筆や電話の取り次ぎ等を支援し、馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係に配慮し、食堂の席を工夫したり、ソファ等を利用し、交流できる場所作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様やご家族様の希望があった際に、電話やはがき等を利用し、これまでの関係が途切れないように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との関わりやご家族様からの情報収集に努め、希望や意向の把握に努めている。	職員は日々のケアを通じて、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意向が十分に把握できない場合は、家族等からの情報収集を基に全職員で話し合い、利用者の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や入居者様との関わりを通して、生活のベースや入居者様が安心して生活できる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個人記録や関わりを通して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の関わりから入居者様の意向を知るように心掛け、ご家族様からの要望を取り入れて介護計画を作成し、評価、見直しを行っている。	介護計画は可能な限り利用者の意見や希望を反映するようにしており、個別で具体的な計画となっている。また、利用者の状態や意向に変化があった場合等はその都度見直し、現状に合った介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカンファレンス等を通して、職員の気付きや工夫を実践して結果を共有することで、見直しにつなげていくように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況やご家族様からの要望に対し、可能な範囲で対応するように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の公民館を利用したり、他グループホームとの交流もあり、状況を見て再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望される医療機関の受診を心掛け、ご家族様の協力をいただきながら対応している。	入居後もかかりつけの医療機関を受診できるよう、支援を行っている。また、利用者が必要な医療を受けられるよう、眼科や整形外科等の専門医の受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時や往診時、または主治医への電話連絡を利用し、状況報告を確実にし、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者やご家族様と連絡を取り合いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応は行っていないが、入居者様やご家族様の要望に応えられるよう、介護計画の見直しや他事業所への紹介等を行っている。	入居時、重度化や終末期の対応は行っていない旨、ホームの方針を説明し、納得していただいている。また、急変時の対応については、随時関係機関との意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の申し送りでの確認やマニュアルの作成、主治医からの指導をいただき対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を計画しているが実施していない。来年度は関係機関の指導をいただき実施したい。	ホームでは災害発生時に備え、非常食や飲料水、毛布等を用意しているものの、コロナ禍のため、令和3年度は避難訓練を実施していない。	いざという時に職員が迅速に対応できるよう、普段から定期的に避難訓練を実施することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の言動を否定しないような言葉掛けに配慮している。守秘義務や個人情報の取り扱いに関するマニュアルを利用し、対応に努めている。	ホームでは基本的に同性介助で対応しており、利用者の羞恥心や自尊心に配慮した支援に努めている。また、個人情報の取り扱いやプライバシーにも配慮した言動を心掛け、日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で思いや希望を理解し、自己決定できるような場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等を優先しないように心掛け、入居者様のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回程度の散髪や、希望に合わせて髪染めの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや苦手なものに配慮し、摂取しやすいように工夫している。また、季節を感じていただけるような献立を心掛けている。入居者様と一緒に、食事の盛り付けや後片付けを行っている。	利用者の好みや苦手な物に配慮した、栄養バランスのとれたメニューとなっている。また、利用者の意向に応じて、食事の盛り付け等を職員と一緒にしており、準備の時間も含め、利用者が食事時間を楽しく過ごせるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせて、摂取しやすいように工夫し、主治医の意見を取り入れながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医師から指導をいただき、毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様一人ひとりに合わせて、見守り介助等に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行動観察にてトイレで排泄できるよう対応している。夜間の排泄に関しては、ご家族様と相談し、居室へポータブルトイレを設置する等、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、本人のタイミングに合わせて事前にトイレ誘導をしている。また、失禁時の声掛け等も、羞恥心やプライバシーに配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を考えたり、運動や体操を行っている。また、牛乳やヨーグルト等の乳製品での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日とし、対応している。1対1の介助を基本として、身体状況に応じて職員二人で介助している。	お湯の温度や入浴の順番等、できる限り利用者の希望に沿って支援している。また、入浴を嫌がる利用者には、時間帯や対応する職員を変更する等の工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの環境を考え、ベッドの高さや位置、布団等、入居者様が安心して睡眠できるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や薬剤師の説明、主治医の指示等により確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で食器拭きや掃除等の手伝いをさせていただき、役割を持っていただくように心掛けている。体操・散歩等を行い、楽しみや気分転換につながるように対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため外出を控えていただいているが、通院時やホーム周辺の散歩、近くの公園への外出等を行っている。	天気の良い日は近所の公園に出かけたり、歩いて駄菓子屋に買い物に出かける等、利用者が気分転換を図れるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自身で金銭の管理が困難な方は、預り金として事務所において管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人からの電話等、希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や温度等に気をつけている。また、仲の良い入居者様同士で交流を持つ場面が増えるように配慮している。	ホームでは利用者それぞれの生活リズムを大切に考えており、ホールでも個別の空間でゆったり過ごせるよう、一人掛けのソファを配置している。利用者は家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他、椅子やテーブル、ソファ等を準備し、入居者様が読書や交流ができるような環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物を持ってきもらうように働きかけている。また、行事やご家族様の写真を飾る等、ホームを「家」と思って安心して過ごせるように対応している。	入居時、慣れ親しんだ物や思い出の物を持ってきてもらうように働きかけており、自宅の自分の部屋と同じような居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の目印を工夫したり、食堂の椅子に入居者様一人ひとりの目印を工夫している。		